

## 海の冒険シリーズ① キッズ海のたんけんたい

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
24	141	24	24 (福井県17、滋賀県5、奈良県1、岐阜県1)

### 2. 事業内容（概要）

#### ◆ねらい

- ・小学校低学年の児童に海での自然体験や生活の場を提供して集団生活を行うことで、人間関係能力の育成と自主自立の精神を養う。
- ・スノーケリングを中心とした海での活動を通して、新しい発見をし、海に対する興味関心を高める。

#### ◆期日・期間

2012年7月21日（土）～ 2012年7月23日（月） 2泊3日

#### ◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都 各府県教育委員会

#### ◆参加者分析

- ・地元福井県を始め、中部圏、関西圏の広範囲から141名の応募があった。特に福井県の嶺南地方の小学校については各小学校児童分のチラシを配布した関係で福井県からたくさん応募があった。
- ・事業の内容、スタッフの人員配置を考慮し、学年、男女別の抽選を行い参加者を決定した。

#### ◆企画のポイント

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7月 21日 (土)					移動 ・受付 はじまりのつどい	昼食		海動 の力 船を んでか け洞ん ん窟じ たまる いで	海終 に標 標確 認する る	最終 目標 標確 認する る	スノ ー海 にな れる る	夕食	海の 話・ 振り返 り	入浴	就寝		
7月 22日 (日)	起 床	朝朝 のつ どい	島 の たん けん たい ②	「海 にと けこ む」 & （つ どい 広 場）	昼食			野外 炊事 ばん さん た会 い ③	「海 のた 味わ さん た会 い」 ③	「海 を味 わさん た会 い」 ③	「海 のた 味わ さん た会 い」 ③	キ ヤ ン で づく フツ アロ イギ ヤー	入就 浴寝				
7	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							

	起床	朝のつどい	④海のたんけんたい スノーケリング	一洞窟まで最終たん	昼食	ふりかえり	おわりのつどい	解散
--	----	-------	----------------------	-----------	----	-------	---------	----

- 抵抗なく海に親しめるように、段階を追って活動を設定した。初日は浜歩き、波遊びを導入アクティビティとし、また、3日間の活動海域のイメージを持たせるためにカッタークルーズを行い安全面からカッターを動力船で横抱きにして実施した。スノーケリングを使う活動を2日目以降に取り入れた。
- 荒天時プログラムとして、海に関するクラフトや学習活動を設定した。(全日晴天に恵まれたことで実施はなかった。)
- プログラムの時間配分に配慮し、ゆとりを持って活動に当たれるようにした。

#### ◆運営のポイント

- 学年毎、男女比を考慮して班を構成し、グループ内での教え合いやリーダー性の發揮など学びの場が持てるようにした。
- 子どもたちに自立、人間関係能力の育成、規律の確立を目標とし、「たんけんたいのおきて」を示すとともにリーダーや職員の関わりについては十分に配慮をしていくこととした。
- なぞの指令書を読んで活動するというストーリー性を持たせた。

#### ◆安全管理のポイント

- 学生リーダーには海での活動について予知される危険なことについての事前指導を行いながら、2人の班付きリーダーを付けて、安全管理を行った。
- 班付きリーダーとは別に、全体を見渡すことのできる安全管理の担当をおいた。
- 熱中症対策を心がけ、水分補給が常に見えるよう準備し、いつでも対応ができるようにした。
- 低学年ということもあり、健康チェックについては朝夕必ず行うようにして、異常のある児童については、看護師にチェックしてもらうようにした。

### 3. アンケート結果

#### (1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	9 2 %	8 %	0 %	0 %
この事業のプログラムはどうでしたか	6 7 %	2 5 %	4 %	4 %
この事業の運営はどうでしたか	7 9 %	2 1 %	0 %	0 %

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

#### (2) 参加者の声

- 魚釣りがとても楽しかった。
- スノーケリングがとても楽しかった。
- 海に飛び込んだのが楽しかった。
- 海の深いところはこわかったけど、行ってみると楽しかった。
- みんな友達になれてよかったです。

#### 4. 成果と課題

##### (1) 成果

- ・ストーリー性を持たせて、段階を追ってなぞの「指令書」を探し出して次の活動へつなげる方法をとったので、子ども達にとっては受け入れやすいものになった。
- ・小学生低学年の段階で海への関心を深めることができた。特に海に縁がない子ども達にとっては効果があった。アンケートの中でも海が好きになったと感想を書いている子がいた。
- ・4グループとも1年2名、2年2名、3年2名の計6名の異年齢で構成したが、日増しに人間関係ができてきてとても仲良くなかった。特に夕食づくりでは協力して互いに教え合いながら夕食をつくる姿が見られた。
- ・ボランティアを育てるという観点に立ち、役割分担を行ったので、ボランティア自身は新しい仕事に戸惑う面も見られたが、役割を考えながら、学生なり子ども達と接する姿が見られた。

##### (2) 課題

- ・少し時間に追われたこともあり、動力船でのクルージング、ウェットスーツを着ての魚釣りなど事前に計画したことが実施できなかった。結果的に時間にゆとりはできたが、低学年ということも考慮に入れて、計画を立てる必要がある。
- ・洞窟での指令書は1チームだけ見つけ出すことができず、後でもう一度探しに行かなければならぬことが起ったので、指令書の隠し場所、見つけた時の声かけ、タイミングなどスタッフでの準備、打ち合わせを綿密に行う必要があった。

#### 5. 活動の様子

海になれる（1日目）



海にとけこむ（2日目）



海を味わう（2日目）



島の越どうくつのたんけん（3日目）

